

2025. 2.7 保護者とともに好きをひろげる～ふようにこにこデー（保護者保育参加）の関わりから～

今日は「ふようにこにこデー」。保護者が幼稚園に来て、好きな遊びを一緒に体験する日でした。

毛糸遊びコーナーでは、いつものように子供たちはマフラーや帽子作り、雪の結晶作りやあやとりなど多様に毛糸に触れながら、毛糸遊びに夢中で楽しんでいました。

その中に、年中児のお母さんが自分の子供と一緒にコーナーにやってきました。そして、そのお母さんは「こんなものも作れるんだよ！」と数本の毛糸でミサンガを作り始めます。手先を器用に動かしながら、どんどん毛糸を編んでいきます。その様子を見る周囲の子供たち。「えー、私もやってみたい！」と反応する年長児。年長児らのミサンガづくりが始まります。そのお母さんは、そこに綿棒の芯と毛糸で作った雪の結晶にスパンコールでデコレーションをし、そのミサンガにつけてブレスレットを子供のために作りました。

しばらくあとに年長児のお母さんが毛糸遊びコーナーにやってきました。すると、さきほどのお母さんと違った方法でミサンガを作り始めます。6本の毛糸を2本ずつに分けて三つ編みのように編んでいきます。その年長児は、お母さんの作り方でミサンガ作りを楽しんでいました。年長児のお母さんは、「中学生や高校生の頃、よく作りましたよねー！」とそこにいた教員と思い出話をしながらミサンガ作りを娘と楽しんでいました。

我々教員も多様な毛糸遊びを展開しながら、子供たちなりに毛糸に出会い、気付きを重ね、毛糸の面白さ、不思議さを味わいながら、毛糸遊びを好きになってほしいとあれやこれやと考えて教材研究をしています。しかし、ミサンガは思いついていなかった。その場にいた教員も、子供たち以上に「お母さん、これも素敵ですね！！」と目をキラキラさせながら感動していました。保護者が一緒に保育参加をしてくれたことでさらに広がる毛糸の世界。

毛糸遊びコーナーでは、マフラー、帽子の製作途中のものや子供たちが書いたあやとりの技カード、ゆらゆらと天井からつらさげである雪の結晶など、今子供たちが毛糸で多様に遊んできている足跡がたくさん残っています。その空間の中で保護者も刺激を受け、「こんな方法もあるよ！」と新たな提案を子供たちや教員にしてくれたのかもしれません。保護者もいち人的環境として、遊び手として遊びや環境を豊かにしていきます。

保育参加をした保護者の感想には、「こんなに子供たちは自由に園の中を動き回り、遊びを楽しんでいることにびっくりした。」「どの子にも居場所があり、みんなもいきいきしていた。」というのもありました。

保護者とともにこの安心空間、面白空間を味わっていく保育参加。そして、さらに新たな面白さを生み出していく保育参加。保護者とともに子供たちの育ちを共有しながら、子供たちの幸せを支えていきたいと思えます。



